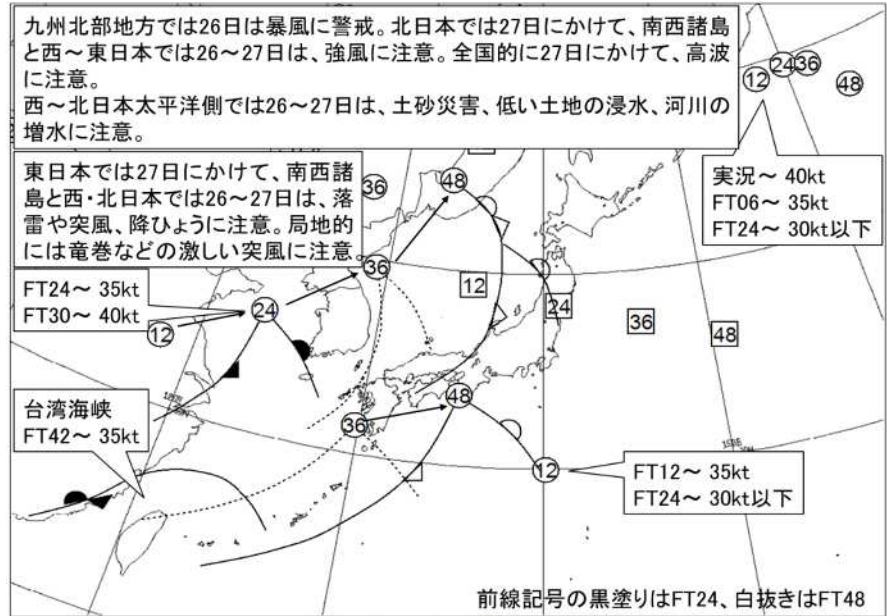


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa5160m 以下の寒冷渦直下の千島近海に発達した低気圧があって、北東進。低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなっており、東日本太平洋側～北日本ではやや強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。
- ② 500hPaのリッジに対応して、高気圧が沿海州付近にあって、南東に移動。
- ③ モンゴル付近の 500hPa 5520m 付近には-36℃以下の寒気を伴ったトラフがあって南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は26日にかけて、千島の東をゆっくり東進。低気圧の周辺では気圧の傾きが大きく、強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。北日本では25日は、強風やうねりを伴った高波に注意。
- ② 1項②の高気圧は、25日夜には北日本、26日には日本の東に中心を移す。高気圧の縁辺では気圧の傾きが大きくなり、東よりの風による風浪とうねりおよび2項①の低気圧からのうねりにより、波が高くなる所がある。南西諸島と東日本太平洋側では25日は、うねりを伴った高波に注意。
- ③ 1項③のトラフは深まりながら、26日朝には黄海に進む。トラフに対応し、25日朝までに華中で低気圧が発生、前線(850hPa+6℃付近)を伴って発達しながら、26日には日本海、27日にはアムール川下流付近へ進み、前線が26～27日に西～北日本を通過する。また、500hPa5760m付近の正渦度移流に伴って25日夜までに華南～東シナ海に前線(850hPa+12℃付近)が発生、26日には前線上の東シナ海に低気圧が発生する。この低気圧は、27日には西～東日本の南岸を通り日本の東へ進む。これらの前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、26～27日は全国的に強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。また、前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨や局地的に非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。九州北部地方では26日は、暴風に警戒。西日本太平洋側では26日は、東～北日本太平洋側では26～27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。全国的に26～27日は強風や高波、落雷や突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本。量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島・九州北部4、その他3m。

③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。